

教育委員会広報紙 NO.2

～東小学校の学校教育の未来について～

令和5年8月16日発行
 富士市教育委員会
 教育総務課 教育政策担当
 TEL:0545-55-2865 FAX:0545-53-8584
 e-mail:kyouiku@div.city.fuji.shizuoka.jp

第3回富士市立東小学校の学校教育の未来を考える会について

富士市教育委員会では、「富士市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」に基づき、富士市立東小学校の学校規模の適正化に関する話し合いを、令和3年度から継続開催しています。

令和5年7月19日（水）には3回目を開催しました。今回は東小学校の児童数の推移とともに、複式学級となる条件や複式学級の場合の授業形態なども皆さんと共有しました。

また、報道等で教員不足が話題になっていますが、富士市においても臨時的任用教員が不足し、複数の学校で教員の欠員が生じている現状があることについても話題になりました。

浮島地区に住む未就学児の数と、現在の東小学校の児童数（R5.5.1現在）

浮島地区の未就学児数						東小学校在籍児童数（全校52人）					
0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4	4	4	10	6	8	9	6	12	9	7	9

（人）

複式学級について

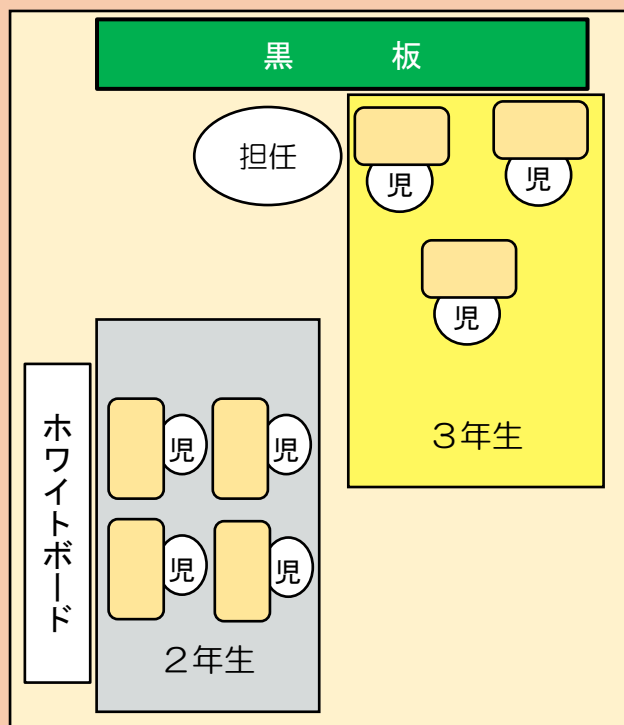
複式学級とは、二つ以上の学年を一つの学級として編制する学級のことです。

静岡県の小学校の場合、二つ以上の学年を合わせても14人以下（1年生を含む場合は8人以下）となった場合には、複式学級として編制することとなっています。学級担任は一人です。

小学校では、学級担任が多くの教科を一人で行うため、複式学級の場合には、授業形態や授業進行において、様々な工夫が必要になります。そこで、複式学級での学習を充実させるため、全国では多くの授業研究がされています。

他の自治体の複式学級の実践事例を見ると、一方の学年が担任の教科指導を受けている間、もう一方の学年は同じ教室内で、既習事項の確認や学習プリント等を使用した自主学習などを行うことが多くなるものと思われます。

複式学級での主な授業形態（例）



前回までの議事録や、表面の資料を基に、様々な意見交換がされました。以下は、参加された方からの意見の抜粋です。

- 複式学級になると、学習環境が今までとは大きく変わり、学びの質が下がってしまう可能性があることが分かった。
- 浮島地区から須津地区まで、低学年の児童が徒歩で通うには無理がある。仮に統合となった場合、大淵第二小のスクールタクシーのような何かしらの通学支援が必要になるだろう。
- 先進的で優れた教育を行うことで、他の自治体からそうした教育を受けたいと、転入者が増えるかもしれないので、ぜひがんばってほしい。
- 教員不足は報道等で取り上げられているが、教員免許を持っている方がもっといるのではないか。複式学級になったとしても、教員を充てて複式解消をしてほしい。
- 市街化調整区域の地区計画は町内会が中心となって進めている。地区計画で浮島地区に住民が増えてくれればいいが、結果が出るまでに10年はかかるだろう。
- 学区や地区を改編してはどうかという意見があったが、現実的にはかなり難しいだろう。かつて浮島3部落が独立し、旧吉原市に合併したが、当時は地区でかなりもめたと聞いている。地区単独の取組で、いかに盛り上げるかを考えたほうがよい。
- 東小学校が編入統合となった場合、避難所として体育館やまちづくりセンターがどうなるか心配である。
- 現在、東小学校は同学年に児童が1桁程度である。1桁の同学年で6年間過ごすことが果たしていいことなのかとも思う。

上記の意見の他にも様々な意見が出されました。

現在、東小学校では小規模校であるメリットを生かしたきめ細かな指導が行われています。しかし、今後、さらに児童数の減少が進んでしまうと、子どもたちの教育環境が大きく変わってしまい、学習目的に最も適した学習形態を实践できなくなったり、子ども同士での多様なコミュニケーションの機会が減ってしまったりと、少人数のメリットよりもデメリットのほうが顕著になってしまふことが懸念されます。

現在の東小学校の豊かな教育環境を維持していくことは大切なことです。しかし、今後、児童数の著しい減少が見込まれる中で、5年後、10年後の学校の学習環境についても、検討していかなければならないと考えます。



富士市公式ウェブサイトには、「基本方針に基づいた適正化の動き及びお知らせ」などの関連情報を載せております。
この件についてのご意見がありましたら、富士市教育委員会教育総務課までご連絡ください。



教育総務課メールアドレス



富士市公式ウェブサイト